

令和7年度第3回奈良市地域福祉推進会議 議事要録	
開催日時	令和8年2月19日(月) 午前10時00分から午前12時00分まで
開催場所	奈良市役所北棟5階501会議室
出席者	<p>委員</p> <p>山下委員長、今西副委員長、作間委員、藤本委員、金野委員、水田委員、安井委員、木村委員、田中委員、松村委員、塩山委員、若野委員、安藤委員、坪田委員、中川委員</p> <p>【委員17名中15名出席】</p>
	<p>事務局</p> <p>【福祉部】福祉部長、福祉部次長、福祉部参事 福祉政策課長 他</p> <p>【奈良市社会福祉協議会】稲葉事務局長、觸澤課長</p> <p>【(株)グリーンエコ】仲里様、中西様</p>
開催形態	公開(傍聴0名)
担当課	福祉部福祉政策課
<b>議事の内容</b>	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 委員長・副委員長の選出について</p> <p>(2) 第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査結果報告(案)について</p> <p>(3) 令和8年度奈良市地域福祉推進会議及び第5次奈良市地域福祉計画策定スケジュール案について</p>	
[質疑・意見の要旨]	
<p>(1) 委員長・副委員長について</p> <p>・奈良市地域福祉推進会議規則第5条の規定に基づき、委員の互選により、委員長に山下委員が選任された。また、副委員長に今西委員が選任された。</p>	
<p>(2) 第5次奈良市地域福祉計画に係る市民意識調査結果報告(案)について</p> <p>○調査報告書の修正</p> <p>1__調査概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民向け、学生向けの質問内容が違うことを記載してはどうか。</li> <li>・アンケート対象者の属性を冒頭に示す構成に変更してはどうか。</li> </ul> <p>2__調査対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生向けには市内、市外在住の大学生であることを明記してはどうか。</li> <li>・学生向けの配布数を記載した方がよいのではないか。</li> </ul>	

## ○アンケート分析

- ・市民、学生ともに濃密な関係より、緩やかな関係を求めている傾向がある。
- ・「地域でできる手助け」と「地域の人にしてほしい手助け」の比較について  
平常時は干渉されない暮らしを望むが、災害時は助けてほしい関係性を望む傾向がある。
- ・若者の意見が行政の政策に反映されてないと感じているが、当事者としての問題意識が見えてこない印象がある。
- ・このアンケート結果から何を一番大事に考えないといけないか検討が必要。
- ・自主防災の活動で家具転倒防止を行っているか確認のため、地域を訪問したところ対策されている家庭はほとんどない印象である。
- ・「防災用品を備えておく」が「必要」の回答が76.6%と出ている結果について、水1本でも備えていれば「必要」と答える人もいるだろう。
- ・地域のつながりは求めているが、普段は構わないでほしい個人主義の傾向がある。  
地域がどこまですべきかが課題であると感じる。
- ・市民調査結果を見て、若者や高齢者が能動的に参加できるような奈良市のビジョンの必要性を感じた。地域の担い手という義務的なものではなく、例えばお祭り等を通して、地域の役割や楽しさを感じられるものなど。
- ・奈良市で地域福祉計画推進の指標をたてるための仮説として、調査結果は活用できるのではないかと思う。
- ・地域福祉計画推進の結果、奈良市が選ばれ人口増加、定着につながれば良い。
- ・今後、氷河期世代が8050問題に該当する世代に入り、さらに物価高等の影響もあり、経済的孤立に陥る可能性も感じた。40代は隠れ孤立予備軍ではないか。  
各世代に合わせた共助の在り方を考える必要がある。
- ・地域コミュニティ強化だけでなく、共助ができる新しいコミュニティ作りが必要。価値観コミュニティ、分断しない、何もしない場所など居場所づくりに取り組んでおり、今後も必要だと感じている。
- ・日頃から不安に思っていることを相談できるのは、家族や親せきが多く、専門機関(かかりつけ医、ケアマネジャーやホームヘルパー、地域包括支援センター)等からの支援を受けている方は少ない印象がある。
- ・無職の層への対応が課題である。特に企業退職後に地域にとけこめない高齢男性の孤立が顕著であるように感じている。企業を退職する直前直後に対策が必要ではないか。
- ・避難行動要支援者名簿について、個人情報取扱いのトレーニングが必要であると感じている。
- ・今回の市民意識調査結果を、次のステップにどうつなげるのかが大切である。

○地域活動

- ・子ども食堂を実施しても、「貧困が原因で食事ができない子ども」というイメージが先行して参加者が集まらない時期があった。移動支援においても、ヒアリングでは移動支援が必要という回答が多いが、実際の活動では人が集まらないなど地域活動するうえで悩みがある。
- ・当事者として地域活動する中で、コミュニケーション不足、情報不足、情報貧困などの課題を感じる。

(3) 令和8年度奈良市地域福祉推進会議及び第5次奈良市地域福祉計画策定スケジュール案について

- ・第5次奈良市地域福祉計画策定スケジュール案とヒアリング方針について共有し、方向性について委員の了承を得た。